

日本建築学会主催 建築文化週間 2026

「銀茶会の茶席」で優秀賞および審査員賞を受賞しました。

創立 140 周年記念 建築文化週間 学生グランプリ 2026 「銀茶会の茶席」において、権田皓映さん、清水陽貴さん、福井陽一さん、三澤至緒さん、宮田妃菜里さん（総合理工学部建築デザイン学科 4 年生）が優秀賞および審査員賞を受賞しました。

作品タイトルは「依織亭」です。

日本建築学会では、10 月に銀座通り周辺で開催される「銀茶会」において、銀座三越の会場で展示され、実際にお茶席として使用される創作茶席の設計・制作案を募集している。このコンペティションによって入選した作品は全銀座会催事委員会および日本建築学会建築文化事業委員会による指導のもと 1/1 模型を制作する。

今回受賞した学生は、8/5 に行なわれた第一次審査を通過した 4 チームに選ばれた。

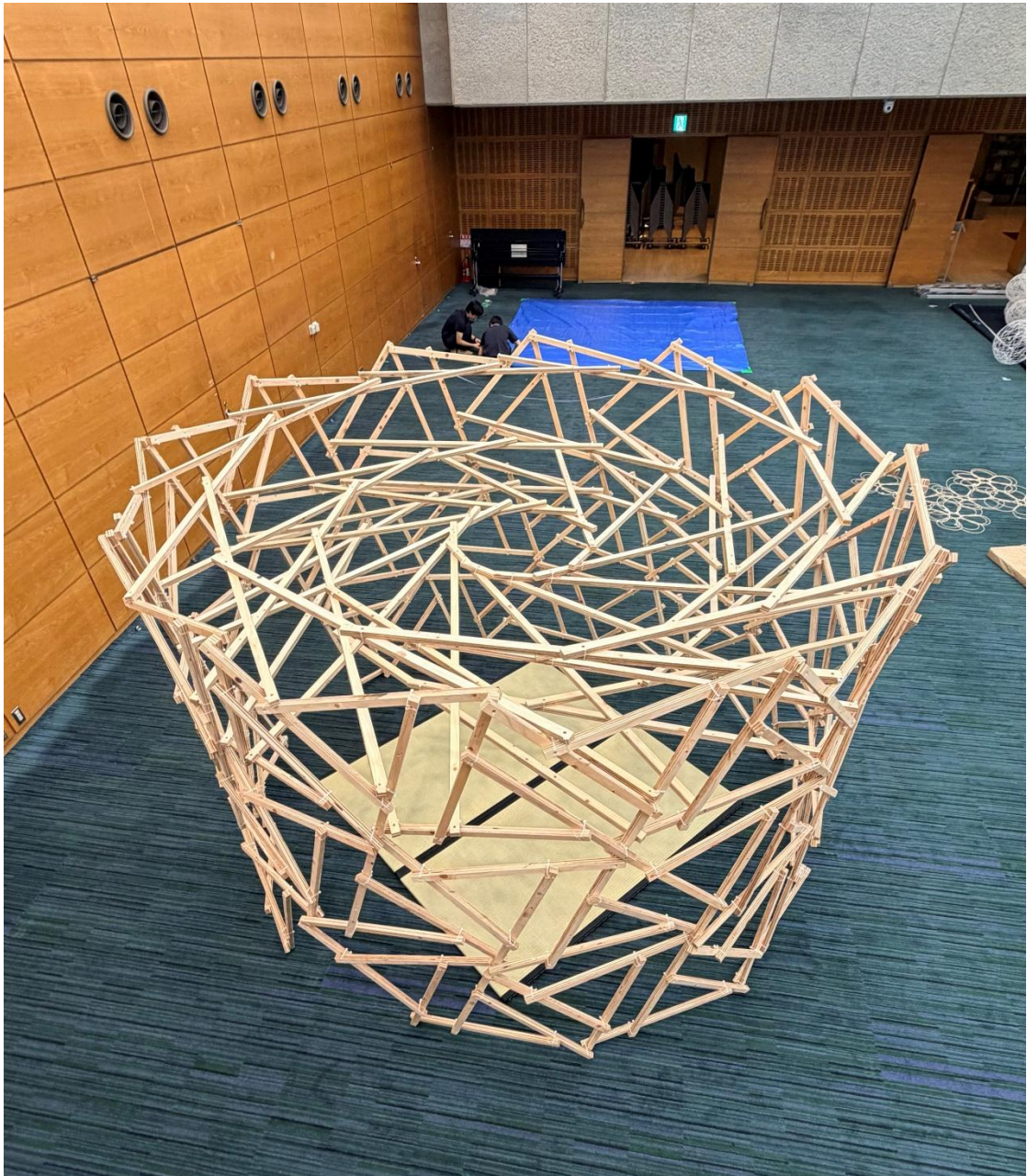
その後 9/27 に行なわれた第二次審査（公開審査）にて 1/1 の模型を制作し、プレゼンを行なった（東京都の建築会館ホールにて制作）。

審査員長からは、「部材が相互に支え合うことで自立させるレシプロカル構造を採用することで、短材の木の組み合わせで広がりのある空間を実現させている。さらに構造形式の特性による斜めの要素を活かして、外表面は円筒形、内表面は半球形という異なる空間形状を現出させるとともに、奥行き感と透け感を同時に成立させている。最小限の材料によってある世界を表現しようとしている点が今回の「和」というテーマにふさわしい」と高く評価された。

<https://bunka.aij.or.jp/events/chaseki2026/>

<https://www.ginza.jp/event/35424>

<https://www.inouelab.com/>





日本建築学会主催
建築文化週間 2026

学生グランプリ「銀茶会の茶席」

優秀賞

作品名 依織亭

権田 皓映 殿
清水 陽貴 殿
福井 陽一 殿
三澤 至緒 殿
宮田妃菜里 殿

あなたがたの作品は 標記のコンペティションにおいて審査の
結果 優れたものと認められました
よって ここに賞状を贈りこれを表彰します

2026 年 9 月 27 日

審査員長

佃 悠



日本建築学会主催
建築文化週間 2026

学生グランプリ「銀茶会の茶席」

審査員賞

作品：依織亭

権田 皓映 殿
清水 陽貴 殿
福井 陽一 殿
三澤 至緒 殿
宮田妃菜里 殿

あなたがたの作品は 標記のコンペティションにおいて審査の
結果 優れたものと認められました
よって ここに賞状を贈りこれを表彰します

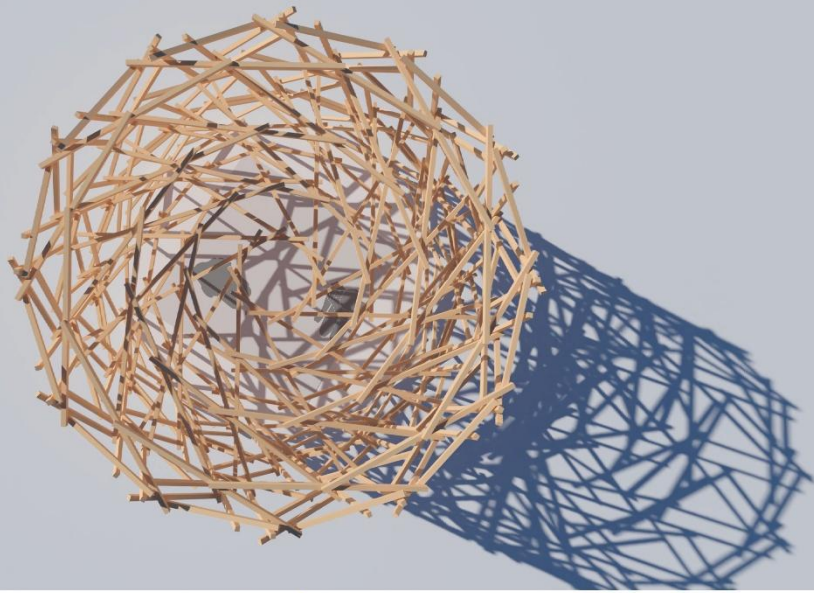
2026 年 8 月 5 日

審査員 佃 悠

依織亭

依り、
織る。

場は、
その間に現る。

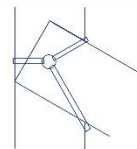


Concept

異なるもの同士が互いを受け止め、支え合いながら関係を結ぶ姿にこそ、その本質がある。一つでは立てなくても、互いに寄り掛かり、力を預け合うことで初めて安定した関係が生まれる。部材は荷重を取り持ち、人は心を取り持つ。互いを支え、取り持ち合う関係が幾重にも重なり合うことで、一つでは決して生まれない豊かな秩序が静かに立ち現れる。

Joint

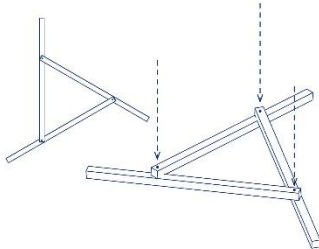
結束バンドによる固定とすることで、部材同士が力を伝達しながら相互に支え合う。



材料

木 : 断面 30mm×30mm
結束バンド : 幅 12mm

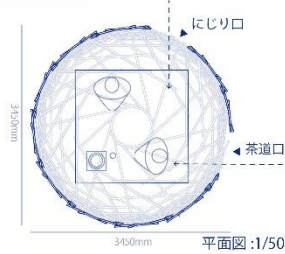
Structure



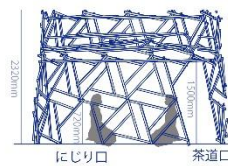
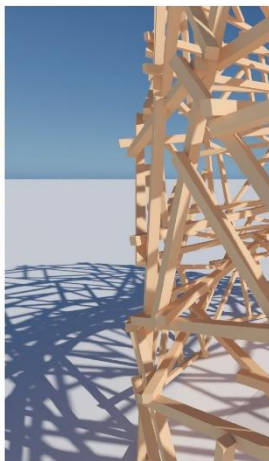
レシプロカル構造

部材同士が互いに支え合うことで自立する構造である。一本の部材では成立しないが、相互に荷重を受け渡すことで安定した架構を形成する。

Plan



茶席を中心とした求心性と、周囲を巡る回遊性を併せ持つ構成とした。
人の動きと視線が交錯し、空間が立ち現れる。



立体的な架構をそのまま空間に表し、適度な包囲感と開放感を両立した断面構成とした。
部材の重なりによって光と視線を緩やかに制御し、茶席に落ち着きと奥行きを創出する。

